

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
心理学研究法 B		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年			45回 90時間		
[担当教員および実務経験]					
久住 雅史					
[授業の目的]					
心理学研究における、心理尺度をどのように作成していくかを実際に体験しながら、作成することで、私たちの内面的な要素を引き出すために必要な「構成概念」を理解していく。また、心理尺度によって導き出される、データが求める心理的側面を的確に導き出されているかの「信頼性」と「妥当性」の理解を深める。 統計ソフトを用いて、データ処理方法を学ぶことで、心理学の研究における統計学の知識を再確認することを目的とする。					
[授業の方法および概要]					
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。					
[授業の到達目標]					
・心理学的構成概念について説明できる。 ・質問紙法を用いた学術論文を読むための基本的用語について説明できる。 ・質問紙法を用いた学術論文で用いられることが多い統計的手法についてある程度説明できる。 ・質問紙調査によって得られたデータを仮説に基づいて分析し、結果を報告することができる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、レポート試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 浦上昌則・脇田貴文著『心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方』東京図書、2009年					

[備考]

[授業計画(内容)]

1	論文を読む
2	論文とは何か①
3	論文とは何か②
4	論文とは何か③
5	研究における測定① 研究における測定の役割を知る①。
6	研究における測定② 研究における測定の役割を知る②。
7	研究における測定③ 研究における測定の役割を知る③。
8	研究における測定④ 研究における測定の役割を知る④。
9	研究における測定⑤ 心理測定とその方法を学ぶ①。
10	研究における測定⑥ 心理測定とその方法を学ぶ②。
11	研究における測定⑦ 心理測定とその方法を学ぶ③。
12	研究における測定⑧ 心理測定とその方法を学ぶ④。
13	研究における測定⑨ 心理測定で得られる数値データの種類を学ぶ①。
14	研究における測定⑩ 心理測定で得られる数値データの種類を学ぶ②。
15	研究における測定⑪ 心理測定で得られる数値データの種類を学ぶ③。
16～	測定から統計へ①
17	
18～	測定から統計へ②
19	
20～	因子分析①
21	
22～	因子分析①
23	
24～	t検定①
25	
26～	t検定②
27	
28～	1要因分散分析
29	
30～	相関
31	
32～	2要因分散分析

33	
34～	重回帰分析①
35	
36～	重回帰分析①
37	
38～	推測統計のまとめ方
39	
40～	推測統計のまとめ方
41	
42～	推測統計のまとめ方
43	
44～	まとめと振り返り
45	

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]	必修 選択
社会・集団・家族心理学B（家族心理学）		講義	
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]	
福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年		15回 30時間	
[担当教員および実務経験]			
栄 千恵子 神経科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務			
[授業の目的]			
本科目では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学ぶ。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応を理解することを目的とする。			
[授業の方法および概要]			
授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。			
[授業の到達目標]			
・システムとしての家族を説明することができる ・家族が個人に及ぼす影響を説明することができる ・家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる			
[成績評価の方法と基準]			
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 裁判傍聴レポートを期限までに提出し、その内容に自分の意見が述べられている。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。			
[使用テキスト・参考文献]			
テキスト：中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子著『家族心理学―家族システムの発達と臨床的援助(第2版)』有斐閣、2019年			
[備考]			

[授業計画(内容)]	
1	家族システム理論
2	家族を理解するための鍵概念（構造派）
3	家族療法の発展史
4	夫婦関係の危機と援助
5	育児・子育てと家族の役割
6	家族が経験するストレスと援助
7	コミュニケーション学派
8	家族内外にあるジェンダーに関する問題
9	男性と家族
10	MRI・コミュニケーション5つの公理
11	コミュニケーションの悪循環
12	家族の発達段階（第1段階～第2段階）
13	家族の発達段階（第3段階～第4段階）
14	家族の発達段階（第5段階～第6段階）
15	学習内容のまとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 老年心理学A・B(前期)		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年			[授業回数・時間数] 45回 90時間		
[担当教員および実務経験] 久住 雅史					
[授業の目的] 人間の加齢による身体・心理的变化について学習する。主なテーマは以下の通り。 老化の基本的考え方、精神機能の変化、パーソナリティと適応、対人関係、死の問題、認知症に関する知識とケア					
[授業の方法および概要] 授業時は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。					
[授業の到達目標] ・心理面について、高齢期のとらえ方や変化について説明できる。 ・高齢期における知的能力やパーソナリティの変化について説明できる。 ・認知症について、疾患の種類と症状、ケアの基本について説明できる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・ 考査点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。 ・ 平常点(25%) ・課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・加藤伸司編「介護福祉士養成テキストブック10 発達と老化の理解」、ミネルヴァ書房、2010年 ・本間昭編「介護福祉士養成テキストブック11 認知症の理解 第2版」、ミネルヴァ書房、2013年					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	客観式レポート解答①
2	客観式レポート解答②
3	客観式レポート解答③
4	客観式レポート解答④
5	老年心理学Aオンデマンドスクーリング① 加齢の考え方と高齢期の捉え方
6	老年心理学Aオンデマンドスクーリング② 加齢と身体的変化
7	老年心理学Aオンデマンドスクーリング③ 情報処理機能の変化
8	老年心理学Aオンデマンドスクーリング④ 記憶機能とその変化
9	老年心理学Aオンデマンドスクーリング⑤ 知能とその変化
10	老年心理学Aオンデマンドスクーリング⑥ 高齢期における適応①
11	老年心理学Aオンデマンドスクーリング⑦ 高齢期における適応②
12	老年心理学Aオンデマンドスクーリング⑧ 人生の最終段階
13	老年心理学Bオンデマンドスクーリング① 認知症の基礎知識Ⅰ
14	老年心理学Bオンデマンドスクーリング② 認知症の基礎知識Ⅱ
15	老年心理学Bオンデマンドスクーリング③ 認知症の基礎知識Ⅲ
16	老年心理学Bオンデマンドスクーリング④ 認知症の心理とケアⅠ
17	老年心理学Bオンデマンドスクーリング⑤ 認知症の心理とケアⅡ
18	老年心理学Bオンデマンドスクーリング⑥ 認知症の心理とケアⅢ
19	老年心理学Bオンデマンドスクーリング⑦ 介護者の心理と支援
20	老年心理学Bオンデマンドスクーリング⑧ 関連課題(セルフネグレクト他)
21	発達心理学的に見た高齢期
22	日本における高齢者・高齢期の現状
23	高齢期における身体的変化
24	高齢期における心理的变化①(記憶)
25	高齢期における心理的变化②(パーソナリティと適応)
26	高齢期における心理的变化④(サクセスフル・エイジング)
27	高齢期における心理的变化⑤(喪失体験・終末期)
28	レポート課題(老年期のとらえ方)説明・作成①
29	レポート課題(老年期のとらえ方)作成②
30	レポート課題(老年期のとらえ方)作成③
31	レポート課題(老年期のとらえ方)作成④
32	レポート課題(老年期のとらえ方)作成⑤
33	レポート課題(老年期のとらえ方)作成⑥
34	認知症の原因疾患・症状(中核症状・周辺症状)血管性認知症
35	認知症の原因疾患・症状(中核症状・周辺症状)アルツハイマー型認知症
36	認知症の原因疾患・症状(中核症状・周辺症状)レビー小体型、前頭側頭型

37	認知症のケア
38	介護者側への支援
39	レポート課題(認知症発祥の影響要因)説明・作成①
40	レポート課題(認知症発祥の影響要因)作成②
41	レポート課題(認知症発祥の影響要因)作成③
42	レポート課題(認知症発祥の影響要因)作成④
43	レポート課題(認知症発祥の影響要因)作成⑤
44	レポート課題(認知症発祥の影響要因)作成⑥
45	授業まとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 老年心理学A・B(後期)		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年				[授業回数・時間数] 15回 30時間	
[担当教員および実務経験] 久住 雅史					
[授業の目的] 人間の加齢と死の問題について考える。					
[授業の方法および概要] 過去に発表された映画を視聴し、老いや死について考察する。					
[授業の到達目標] ・死への準備、人生を全うする理由について学生自身が意見を述べられる。 ・さまざまな「死」における人間のあり方を考えることができる。					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。 ・考查点(75%) ・到達目標の修得状況を測るために、課題提出により期末考查を実施する。 ・平常点(25%) ・課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・DVDは校内常備の授業用DVDを使用。					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
コマ数	授業の内容
1	死とは何か：NHK課外授業・ようこそ先輩「死の実験と生きる役割・新井満」
2	死の心理：エチカの鏡「人生の終わりについて考える・完結編」(キューブラーロスの「死の段階」の説明)
3	死ぬことの後悔(1)：エチカの鏡「死ぬときに後悔する25のことスペシャル」
4	死ぬことの後悔(2)：「人生の終わりについて考えるスペシャル」(親が死ぬまでにやっておきたい55のこと)
5	死期を悟る：生きる
6	運命としての死：檜山節考
7	自宅以外での死：病院で死ぬということ
8	病に奪われる命：明日の記憶
9	誰にも見取られない死：NHKスペシャル無縁社会～「無縁死」3万2千人の衝撃～
10	「生かされる」ことの是非：NHKスペシャル「命をめぐる対話」
11	命を奪うこと：ブタがいた教室
12	権力に奪われる命：実録「死刑囚と刑務官」～死刑執行・最期の5日間～
13	死を見届ける：ETV特集「さよなら」を言う前に～わが子の「脳死」と向き合った家族～
14	亡骸を送り出す：おくりびと
15	授業まとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
発達臨床心理学		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
福祉心理専攻科 2 年 前期 後期 通年			1 5 回 3 0 時間		
[担当教員および実務経験]					
井畑 友佳					
[授業の目的]					
この授業では、発達の視点に立って人を理解し支援するために大切となる考えや知見について学ぶ。さらに、主に発達障害児や乳幼児期の子ども、加えてこのような子どもに関わる人たちに対する支援についても考える。中でも、以下の内容について理解を深めることを目的とする。 1) 発達支援の特徴と基本的な考え方 2) 発達理解や支援において理解が必要となる発達のプロセスやメカニズムの特徴 3) 様々な発達障害の特徴と発達の道のりで直面する生きづらさ 4) 発達障害児へのかかわりと発達支援の方法 5) 育児における諸問題の特徴や発生のメカニズム、対応の基本 6) 「気になる」子の保育、その子が属するクラス運営などの困難さと支援の方法					
[授業の方法および概要]					
授業を行い、レポートの課題内容を理解した上で課題レポート執筆へとつなげていく。授業は到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体的な内容を含めて講義を行う。さらに、内容を深く理解するために必要に応じてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いる。					
[授業の到達目標]					
1) 発達臨床心理学や発達支援の特徴について説明できる。 2) 発達理解や支援の際に理解が必要となる発達のプロセスやメカニズムの特徴を説明できる。 3) 2) の視点から人やその人が直面している問題を見ることができる。 4) 発達障害の特徴と直面する生きづらさ、関わりや発達支援の基本について説明できる。 5) 乳幼児期の子どもの発達に関連する諸問題とその支援について説明できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) 到達目標の修得状況を測るために、レポート試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ レポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。					

・授業に積極的に参加し、周囲と関わりながら自らの向上を図っている。
【参考文献】 遠藤利彦・佐久間路子・徳田治子・野田淳子著『乳幼児のこころ—子育て・子育ての発達心理学』有斐閣、2011年
【備考】 単位取得のためには、大学のスクーリング受講とスクーリング試験の合格が必要である。

【授業計画(内容)】	
1	導入：基本的な発達と発達支援の考え方（この科目における目的と課題）
2	発達臨床心理学と発達支援①：発達臨床心理学とは
3	発達臨床心理学と発達支援②：発達支援とは
4	発達支援における基本的な考え①：時間軸の中で発達をとらえる
5	発達支援における基本的な考え②：環境との関係性の中で発達をとらえる
6	発達障害の理解と支援①：ASDの主な発達障害の特徴と直面する生きづらさ
7	発達障害の理解と支援②：LDの主な発達障害の特徴と直面する生きづらさ
8	発達障害の理解と支援③：ADHDの主な発達障害の特徴と直面する生きづらさ
9	発達障害の理解と支援④：発達障害児への支援の基本
10	育児における諸問題の理解と支援①：親としての発達と育児支援
11	育児における諸問題の理解と支援②：乳幼児虐待の理解と対応
12	保育の場における「気になる」子の理解と支援①：「気になる」子の保育の困難さ
13	保育の場における「気になる」子の理解と支援②：「気になる」子の保育の困難さと保育の在り方
14	まとめ①：発達障害の特徴と直面する生きづらさ、関わりや発達支援について
15	まとめ②：乳幼児期の子どもの発達に関連する諸問題とその支援について

授 業 計 画（シラバス）

[科目名]		[授業形態]		必修 選択	
心理学的支援法Ⅰ・Ⅱ		講義			
[対象学科・学年・時期]			[授業回数・時間数]		
福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年			76回 152時間		
[担当教員および実務経験]					
栄 千恵子 神経科クリニック、教育研究所等で心理カウンセラーとして勤務					
[授業の目的]					
心理学支援法とは心理学に固有の、カウンセリング・心理療法・その他の支援方法を包含する新たな用語である。心理的な問題で苦しむ人々を支援したりその人固有の豊かな生き方を模索することを支えたりするための基盤となる基本的な態度およびに、心理療法の理論的背景と実践方法の習得を目的とする。					
[授業の方法および概要]					
到達目標に沿ってテキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い内容の修得を目指す。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。					
[授業の到達目標]					
・ 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適用と限界を説明できる。 ・ 訪問による支援や地域支援の意義について説明することができる。 ・ 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について述べることができる。 ・ プライバシーへの配慮について説明することができる。 ・ 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育について解説できる。					
[成績評価の方法と基準]					
教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考查を実施する。 ・ 平常点(25%) ・ 事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献]					
・ 末武康弘『心理学的支援法—カウンセリングと心理療法の基礎』誠信書房、2018年					
[備考]					

[授業計画(内容)]		
1	心理学的支援法への誘い	
2	心理学的支援法の特質	
3	心理学的支援法の効果と限界	
4-5	心理学的支援法の対象	
6-7	心理学的支援法の発展	
8-9	心理学的支援法の理論と方法	
10-11	心理学的支援法の主要理論	
12-13	心理学的支援法のプロセスと実際	
14-16	精神力動的アプローチ	
17-19	認知行動的アプローチ	
21-23	パーソンセンタードアプローチ	
24-25	箱庭療法	
26-28	プレイセラピー	
29-30	フォーカシング	
31-32	心理学的支援法Ⅰスクーリング	心理学的支援の概要①
33-34	心理学的支援法Ⅰスクーリング	心理学的支援の概要②
35-36	心理学的支援法Ⅰスクーリング	精神分析／精神力動論
37	心理学的支援法Ⅰスクーリング	ライフサイクル論①
38	心理学的支援法Ⅰスクーリング	ライフサイクル論②
39	心理学的支援法Ⅰスクーリング	ライフサイクル論③
40	心理学的支援法Ⅰスクーリング	現代社会と精神力動的的心理支援
41	心理学的支援法Ⅰスクーリング	日常生活と精神力動的的心理支援
42-43	心理学的支援法Ⅱスクーリング	クライエント中心療法、フォーカシング
44-45	心理学的支援法Ⅱスクーリング	カールロジャースの面接
46-47	心理学的支援法Ⅱスクーリング	認知行動療法
48	心理学的支援法Ⅱスクーリング	心理学的支援法のプロセスと実際
49	心理学的支援法Ⅱスクーリング	箱庭療法・内観療法・森田療法
50	心理学的支援法Ⅱスクーリング	プレイセラピー、ブリーフセラピー
51	心理学的支援法Ⅱスクーリング	アウトリーチ、危機介入と心のケア
52	心理学的支援法Ⅱスクーリング	心理教育
53-54	エンカウンターグループ	
55-56	ブリーフセラピー	
57-58	アウトリーチと危機介入	
59-60	精神分析における局所論・力動論	
61-62	精神分析における発達理論	
63-64	精神分析における防衛機制理論	

65-66	自我心理学と対象関係論
67-68	ユングの分析心理学
69-70	アドラーの個人心理学
71-72	行動療法における学習理論
73-74	レスポナント技法とオペラント技法
75-76	振り返りとまとめ

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] 卒業研究	[授業形態] 講義・実習	☒ 必修 選択
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 2 年 前期 後期 通年	[授業回数・時間数] 1 3 5 回 2 7 0 時間 (前期 4 5 回 後期 9 0 回)	
[担当教員および実務経験] 授業担当：久住雅史 井畑友佳		
[授業の目的] 専門学校および大学履修科目で、これまで学習してきた心理学と福祉に関する知識について、特定のテーマについて深く掘り下げ、より深い教養と知識を養うために研究論文として完成させる。		
[授業の方法および概要] 自分で研究テーマや、研究方法を選択することで、自分の興味ある分野の先行研究に触れ、そこから自分で導き出した結論を導き出すことを経験する。		
[授業の到達目標] ・ 先行研究について、公共機関を積極的に活用し、書物・研究論文を用いることができる ・ 自分の研究テーマを見出し、それに沿った研究デザインが選択できる ・ 調査資料をデータ処理し、導き出された結果をエビデンスとして、結論を導き出すことができる ・ 研究テーマに対して、客観的な考察に基づき、研究論文としてまとめることができる		
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点(75%) ・ 平常点(25%) ・ 指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。		
[使用テキスト・参考文献] 各自、自分のテーマによって文献検索		
[備考]		

[授業計画(内容)]	
1～3	卒業研究の進め方の確認
4～6	研究テーマ選択のための文献資料に当たる
7～9	研究テーマ選択のための文献資料に当たる
10～12	研究テーマを絞るための課題確認
13～15	研究テーマを絞るための課題報告
16～18	研究テーマを2つに絞り報告
19～21	研究テーマを1つに絞るために研究方法の課題確認
21～24	研究テーマを1つに絞るために研究方法の課題確認
25～27	研究テーマを1つに絞るために研究方法の課題報告
28～30	研究テーマを1つに絞る
31～33	研究方法の選択と研究方法の資料作成
34～36	研究方法の選択と研究方法の資料作成
37～39	研究テーマと研究方法を報告
40～42	研究方法の選択と研究方法の資料作成（調査・文献）
43～45	研究方法の選択と研究方法の資料作成（調査・文献）
46～51	担当者との打ち合わせ 研究（調査・文献）
52～57	研究（調査・文献）
58～63	研究（調査・文献）
64～69	研究（調査・文献） 中間報告資料作成
70～75	研究（調査・文献） 中間報告
76～81	研究（調査・文献）
82～87	研究（調査・文献）
88～93	研究（調査・文献）
94～99	研究（調査・文献）
100～105	論文作成 レジメまとめ
106～111	論文作成 レジメまとめ
112～117	論文作成 レジメまとめ
118～123	卒業研究発表
124～129	論文作成
130～135	論文完成 提出

授 業 計 画（シラバス）

[科目名] レポート&オンデマンドスクリーニング指導		[授業形態] 講義		必修 選択	
[対象学科・学年・時期] 福祉心理専攻科 2年 前期 後期 通年				[授業回数・時間数] 75回 150時間	
[担当教員および実務経験] 久住 雅史					
[授業の目的] 大学履修科目を確実に習得するうえで必要な課題の達成状況を把握し、学生の能力に応じた履修段階を指示し課題を明確にしていくことを目的とする。					
[授業の方法および概要] 大学履修科目の提出状況を確認し、単位取得のために課題に着実に向き合っているかを判定する。レポート課題の提出目標に対し、どの程度終了できているかで到達度を測定する。					
[授業の到達目標] ・自身が履修している科目に対し、レポートの作成状況が作成計画に適しているかを自分で把握できる。 ・作成計画に無理が生じた場合においては、自ら計画を修正することができる。 ・作成計画において他者の意見を求め、作成に反映することができる					
[成績評価の方法と基準] 教科出席率が80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・ 考查点 (75%) ・ 到達目標の修得状況を測るために、レポート課題の提出状況により実施する。 ・ 平常点 (25%) ・ 授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。					
[使用テキスト・参考文献] ・ 適宜、資料を配布する。					
[備考]					

[授業計画(内容)]	
1	単位未修得レポートに関する作成計画立案
2	レポート作成
3	レポート作成
4	前週の進捗状況確認①
5	レポート作成
6	レポート作成
7	前週の進捗状況確認②
8	レポート作成
9	レポート作成
10	前週の進捗状況確認③
11	5月科目修了試験対策①
12	5月科目修了試験対策②
13	前週の進捗状況確認④
14	レポート作成
15	レポート作成
16	前週の進捗状況確認⑤
17	レポート作成
18	レポート作成
19	前週の進捗状況確認⑥
20	レポート作成
21	レポート作成
22	前週の進捗状況確認⑦
23	レポート作成
24	レポート作成
25	前週の進捗状況確認⑧
26	レポート作成
27	レポート作成
28	前週の進捗状況確認⑨
29	レポート作成
30	レポート作成
31	前週の進捗状況確認⑩
32	7月科目修了試験対策①
33	7月科目修了試験対策②
34	前週の進捗状況確認⑪
35	レポート作成
36	レポート作成
37	前週の進捗状況確認⑫

38	レポート作成
39	レポート作成
40	前週の進捗状況確認⑬
41	レポート作成
42	レポート作成
43	前週の進捗状況確認⑭
44	9月科目修了試験対策①
45	9月科目修了試験対策②
46	前週の進捗状況確認⑮
47	心理学的支援法レポート作成
48	前週の進捗状況確認⑯
49	心理学的支援法レポート作成
50	前週の進捗状況確認⑰
51	心理学的支援法レポート作成
52	前週の進捗状況確認⑱
53	心理学的支援法レポート作成
54	前週の進捗状況確認⑲
55	心理学的支援法レポート作成
56	前週の進捗状況確認⑳
57	心理学的支援法レポート作成
58	前週の進捗状況確認㉑
59	心理学的支援法レポート作成
60	前週の進捗状況確認㉒
61	心理学的支援法レポート再提出分修正
62	前週の進捗状況確認㉓
63	心理学的支援法レポート再提出分修正
64	前週の進捗状況確認㉔
65	心理学的支援法レポート再提出分修正
66	前週の進捗状況確認㉕
67	心理学的支援法レポート再提出分修正
68	前週の進捗状況確認㉖
69	再提出レポート確認修正
70	前週の進捗状況確認㉗
71	再提出レポート確認修正
72	前週の進捗状況確認㉘
73	再提出レポート確認修正
74	前週の進捗状況確認㉙
75	再提出レポート確認修正